

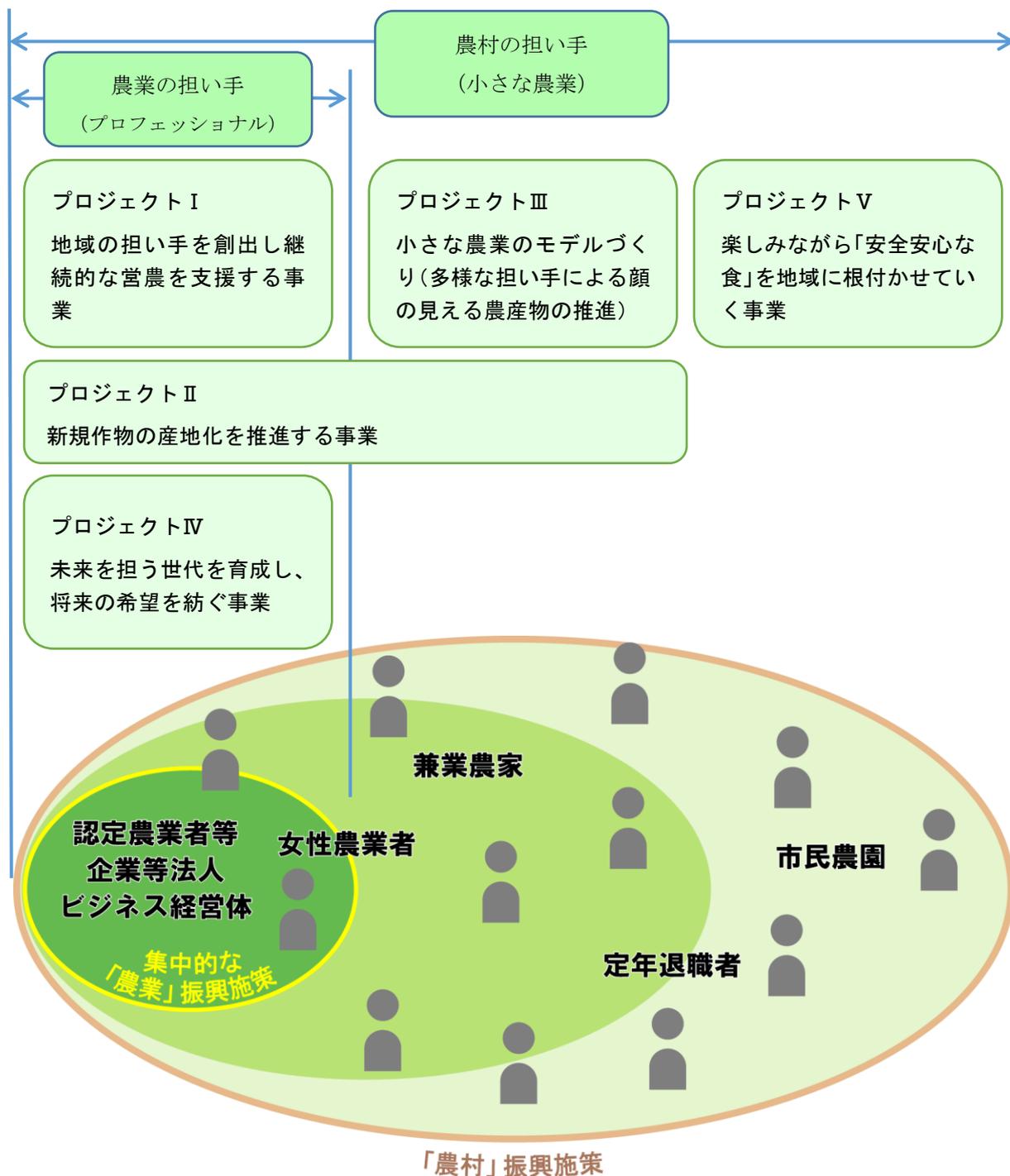
# 掛川市農業振興ビジョン 別紙

リーディング・プロジェクト



ビジョンに位置づけた施策の実効性を高めるため、各主体が協働して取り組んでいく5つの「リーディング・プロジェクト」を設定しました。

各プロジェクトに関連するそれぞれの担い手は下図に示すとおりです。



### 地域の担い手を創出し継続的な営農活動を支援する事業

人・農地プランに基づく話し合いの推進により、地域の課題を包括的に解決するための体制を整備します。

#### STEP1 地域の課題の共有

---

##### ①人・農地プランに基づく地域の話し合いの推進

後継者等地域の担い手、推進していく作目や地場産加工品、草刈りや用排水路の管理等のコミュニティ活動など、地域の課題について話し合いを進め、意識を共有する。

話し合いは地域が主体となってい、農協・行政などもオブザーバーとして参加する。地域の話し合いに基づく、課題への具体的な取り組みに対し、有効な支援策を検討する。

#### STEP2 地域の担い手の生産体制づくり

---

##### ②農地中間管理事業等による担い手への農地集積・集約

地域の担い手となる農業者への集積・集約を進めていく場合、農地中間管理事業等の制度を活用し、農地の円滑な貸借と経営基盤の強化、安定化を図る。

重点地区として、基盤整備事業実施（検討）区域を位置づけ、生産性の高い優良農地の早期施設整備、整備後の持続的な耕作・管理体制を推進する。

##### ③地域の農業活動が継続的に行える組織（法人、集落営農）づくりの支援

集落営農等の組織化や法人化を検討する地区に、農協・行政・中東遠タスクフォースの連携により、税理士等専門家の派遣など必要な支援を行う。

先行事例をモデルとして位置づけ、その組織代表者を講師として実体験に基づく勉強会を実施し、他地区への展開を図る。

法人化に必要な経緯費について国の支援制度を活用し、組織の負担軽減を図る。

##### ④担い手の耕作条件に合わせた畦畔撤去や簡易な整備の推進（耕作条件改善事業）

地域の合意形成に基づいた、将来の農地活用の方向性に合わせた整備を進める。

過去に土地改良事業による区画整理が済んでおり、畦畔撤去等の簡易な整備で集約化等が対応可能な農地については、過剰な投資を行わず事業効果の早期発揮を重視する。

#### STEP3 地域の協働による取組

---

##### ⑤多面的事業による機能・景観保全活動の推進

担い手の位置づけに併せ、草刈りや用排水路の維持・管理等農村環境の保全について地域で話し合いを進め、国の「日本型直接支払制度」を最大限活用し、地域の共同活動を推進する。

STEP1 から STEP3 までを一連の流れとして構築することで、持続性のある地域の体制づくりを図る。

## STEP4 行政・農協等によるハード整備

さらに重点的に進めていく施策について、行政・農協等による公共事業を活用したハード整備を行う。

### ⑥選果場、リースハウス等 ICT 施設整備による安定生産・安定供給の推進

いちごやトマト等施設園芸の統合環境制御システムを備えた低コスト耐候性リースハウスやパックセンターの建設により、新規就農者等の受入体制の整備、農業者の負担軽減を図り、安定生産・安定供給を推進し、産地ブランド力の強化を図る。

#### 施策体系との関連

- 3-② ICT 等先進技術・新品種の導入、普及促進
- 3-⑤ 6次産業化・農商工連携への取組の推進
- 4-① 認定農業者の確保・育成
- 4-② 農業経営の法人化推進
- 4-④ 新規就農者・後継者の確保・育成
- 4-⑤ 多様な担い手による農業の推進
- 4-⑥ 農業経営支援活動の実施
- 5-② 農道の整備
- 5-③ ほ場の整備
- 5-⑦ 担い手への農地集積・集約の促進
- 7-① 農業資源の保全・管理活動の推進

### 新規作物の産地化を推進する事業

農業所得向上のため、新規作物導入の研究を進め、新たな経営作目として産地化の取組を進めます。

#### STEP1 新規作物の栽培研究

##### ①（主にお茶の）複合経営作物の導入研究

お茶の産地であることから、お茶との複合経営を視野にいたし、作物の可能性を探る。お茶との栽培・作業時期が重ならないことやマーケットインの考えのもと、栽培可能作物を選定、研究していく。

#### STEP2 地域に新たに付加価値を生み出すビジネスの創出

##### ③ 6次産業化を含めた販路の検討

同じ作物を栽培する地域が存在することも想定されることから、6次産業化・農商工連携も含めた付加価値が高く、差別化された商品をマーケットインの視点で提供していく。また、お茶との組み合わせによる商品の提案を検討していく。

##### ④ 地元企業等との連携

本市特産物であるバラと組み合わせた、地元産のローズオイルや県内水産工場で生産されるツナ缶への使用など、地元企業と連携し、特産品の開発研究を進め、安定した販路を開拓する。

#### STEP3 多様な就業ニーズの可能性の発掘

##### ⑤ 農福連携、園芸療法への活用

障がい者施設と連携し、障がいの特性や障がい者の個性に合わせた作業工程（剪定、収穫など）を検討し、障がい者雇用のモデルをつくる。

「希望の丘」と連携し、園芸療法の栽培作目にオリーブ導入を検討する。

安定した栽培技術が確立したら、他施設への導入拡大を進める。

#### 施策体系との関連

- 3-② ICT等先進技術・新品種の導入、普及促進
- 3-③ ブランド化の推進
- 3-④ 地域特産品の開発
- 3-⑤ 6次産業化・農商工連携への取組の推進
- 5-⑧ 荒廃農地等の発生防止と有効利用
- 6-⑥ 農福連携による雇用の創出



## リーディング・プロジェクトⅢ

### 小さな農業のモデルづくり（多様な担い手による顔の見える農産物の推進）

多様な担い手により地域の農業を支え、地域コミュニティの維持・活性化に繋がります。また、農産物直売所を通じた「顔の見える農産物」の提供により、消費者の食の安全性に対する啓発を図ります。

#### STEP1 多様な担い手の参加の場の整備

---

##### ①定年退職者、シニア世代の農業への参加支援 生きがいつくり

定年退職後の生きがいつくりの一助として、まちづくり協議会や農業活性化やる気塾と連携した取り組みにより、地域の遊休農地等を活用した農業参加を支援する。

農協や種苗店等による栽培講習会により、自家消費だけでなく農産物直売所への出荷等も踏まえた適正な栽培技術の取得を進める。

##### ②農業参加へのプロセスづくり

農地ナビの活用による農地情報の取得や耕作希望地のマッチング、市民農園の活用を推進し農業参加の敷居を低くすることにより取り組みの輪を広げる。

#### STEP2 技術取得支援の推進

---

##### ③一般社団法人中東遠タスクフォースとの連携による人材支援、育成のしくみづくり

一般社団法人中東遠タスクフォースと連携し、第一線を退いた農業者の現地派遣による栽培指導等の技術修得が行える体制づくりを進める。

##### ④女性農業者の経営感覚を活かす場の整備

女性農業者の経営感覚を活かし、マーケティングや売れる商品の開発などコミュニティ活動の中で発揮できる場の整備を、まちづくり協議会や農業活性化やる気塾等と連携し進めていく。

#### STEP3 小さな農業を核としたコミュニティの形成

---

##### ⑤農産物直売所をコミュニティ拠点とした地域交流の推進

市内各所にある農産物直売所を直売施設として使うだけでなく、地元女性農業者による曜日限定の農家レストランや地場農産物を使用した料理教室の開催など、人、もの、情報が集まる場、交流する場として地域コミュニティの活動拠点となる体制づくりを進める。

また、ニンジンイモなど古くから受け継がれてきた在来作物を、地域の固有種として栽培を引き継いでいく取組や、加工品の製造などをコミュニティ活動として実践し、集落機能の強化や都市農村交流、荒廃農地の有効活用などの地域資源として活用する。

## 施策体系との関連

- 1－②食の安全確保に向けた取組の推進
- 2－①農産物直売所の新たな展開の推進
- 2－②地場農産物のPR活動の推進
- 2－③地産地消の推進
- 4－⑤多様な担い手による農業の推進
- 4－⑥農業経営支援活動の実施
- 7－⑥市民農園の有効活用

## リーディング・プロジェクトⅣ

### 未来を担う世代を育成し、将来の希望を紡ぐ事業

未来を担う若い世代が、生産・加工・販売までの農業の一連の農業の流れを実践することにより地域とふれあい農業への関心を高めるとともに、農業のやりがいや達成感を感じる取組を進めます。また、取組の内容は年代に応じてステップアップさせていきます。

#### STEP1 地域とのふれあいの中で農業の大切さ、面白さを学ぶ

##### ①小中学生を対象とした農業体験教室

まちづくり協議会や農業活性化やる気塾と連携した、地域ぐるみの農業体験教室の実施を推進する。

学校での総合学習などでの部分的な農業体験ではなく、「自分が育てた農産物」として愛着を深めていけるよう、月に数回程度の継続した活動を行う。

地元女性農業者や親子参加による、生産物を使用した料理教室の開催等、家族ぐるみで新鮮な地場農産物への関心を深める仕掛け作りを進める。

#### STEP2 自ら企画し儲けること、社会参加の喜びと達成感を学ぶ

##### ②高校、大学生を対象とした経営視点の農業体験

市内農業法人や農業経営コンサルタントによる、就農を見据えた、受講・実践を織り交ぜた農業体験塾の企画支援の実施を推進する。

計画段階において、消費者のどんな層を対象とするか、加工して何を作るか、販売数量など出口戦略に基づくマーケティングを行い、それを踏まえた作目、収量等の生産計画をシミュレーションする。

生産段階では、可能な範囲においてほ場の管理まで行い、全ての工程に携わる。

地元の菓子製造会社等と連携し、生産物を使用したスイーツ等を製造する。

店頭販売など販促活動の中で、消費者の意見を直に聴き、フィードバックを行う。

#### STEP3 社会参加、貢献により、期待に応えることのやりがいを学ぶ

##### ③就農技術取得までの期間にかかる滞在費用の支援等により地域での就農、定着を図る

県新規就農者支援事業等により、市内に転居し農業研修を希望する対象者等に対し、農協やまちづくり協議会、「空き家バンク」と連携した居宅の斡旋等の支援や研修時、就農開始初期における費用負担軽減を支援する仕組みを作る。

地域コミュニティにおける組織や活動への積極的な加入・参加により、地域での役割付けを進め、農業者だけでなく地域全体での受け入れ体制をつくる。

## 施策体系との関連

- 1－②食の安全確保に向けた取組の推進
- 2－⑤食育の推進
- 4－④新規就農者・後継者の確保・育成
- 4－⑤多様な担い手による農業の推進
- 6－①農村コミュニティの維持・活性化の推進
- 6－⑤農業・農村体験学習の推進

### 楽しみながら「安全安心な食」を地域に根付かせていく事業

健康情報が伝わらないという課題に対して、健康意識の低い人が興味を持ってもらう新しいしくみづくりに取り組みます。

その中でも特に、「野菜をたくさん食べる」ということに焦点を当て、「野菜を作る」「野菜を美味しく調理して食べる」「野菜を使った総菜、加工品を売る」の一連の流れを通して、健康な食生活の実践を進めます。

#### STEP1 野菜を作る

##### ①市民農園や遊休農地を活用して、実際に自分で野菜を育てる仕組みを作る。

野菜作りや健康に興味のある人に家庭菜園教室を行い、野菜作りを実践する。

指導、アドバイザーにJAや農家を依頼し、失敗が少ないようにする。また、農地が少ない地域やアパートの人でも取り組めるように、プランター栽培のコースなども用意する。

実際に自分で野菜を作ることにより、野菜に対する思い入れが深まり、野菜を生産する農家への感謝の念を持つことができ、野菜を積極的に摂ることにつながる。

- ・対象：野菜作りや健康に興味のある人
- ・指導、アドバイザー：農家、JA
- ・場所：農地が少ない地域、住宅地でも気軽にできる場、余っている農地、プランター
- ・内容：家庭菜園教室などを開催する。

#### STEP2 野菜を美味しく調理して食べる

##### ②自分で作った野菜を使って、おいしく簡単に料理する方法を学ぶ。

指導は、食生活推進員や栄養士等が行い、メニューは、従来の料理教室より、「お手軽・簡単に」「カフェやデパ地下のデリにあるようなオシャレなもの」をコンセプトとする。

地域の公民館や地域生涯学習センターなどを活用し、託児付きの料理教室を開催すれば、野菜を作る余裕のない子育て中の親も近所の会場で気軽に参加できる。

自ら作った野菜を実際に料理に使うこと（成功体験）で、各家庭での実践につながる。

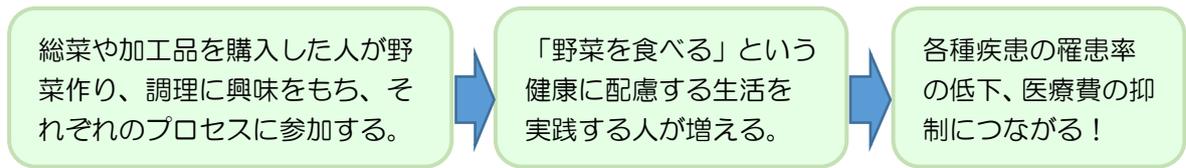
- ・対象：調理に興味のある人
- ・指導、アドバイザー：食生活推進員、栄養士など
- ・場所：公民館など（託児を用意すると若い母親も参加しやすい）
- ・内容：栽培した野菜を使用した料理教室

#### STEP3 野菜を使った総菜、加工品を売る

##### ③料理教室で学んだノウハウは、家庭での調理に生かすだけではなく、調理に時間のない方向けに総菜や加工品を製造して、販売を行う。

- ・調理した総菜や加工品をスーパーや直売所と協力して販売する。

## STEP4 さらに展開



### 施策体系との関連

- 1 - ②食の安全確保に向けた取組の推進
- 2 - ③地産地消の推進
- 2 - ④地場農産物を利用した加工販売の推進
- 2 - ⑤食育の推進
- 6 - ⑤農業・農村体験学習の推進
- 7 - ⑥市民農園の有効活用

掛川市 農業振興ビジョン  
2023～2026

編集・発行／掛川市産業経済部 農林課  
〒436-8650 静岡県掛川市長谷 1-1-1  
TEL:0537-21-1111 (代表) FAX:0537-21-1212 (代表)  
ホームページアドレス  
<http://www.city.kakegawa.shizuoka.jp/>